

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	パレスチナ問題の歴史と現在 (Palestine Issues Past and Present)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界の矛盾はこの地に集約される		
担当者名 (Instructor)	金子 由佳(KANEKO YUKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	ミックス型授業パイロット実施対象科目(詳細は下記「その他」欄参照)		

授業の目標(Course Objectives)

パレスチナ問題の現状を理解すること。そこから、国際政治のあり方や、平和について再考すること。

Students will understand the current situation of Israeli-Palestinian conflict. From there, students will understand one part of international politics and world peace.

授業の内容(Course Contents)

世界で最も解決するのが難しい紛争の一つと言われる、「パレスチナー-イスラエル問題」。70年以上も問題が解決されないのは何故でしょうか？歴史的背景を紐解きながら、戦争について、宗教について、平和や正義について、国際政治について、多角的に考える機会を作りたいと思います。

講師は2012年8月～2017年2月までパレスチナ自治区で国際協力NGO職員として活動していました。東エルサレムに住みながら、ガザ地区と西岸地区で子どものための保健事業を実施。ガザには100回程度訪れています。

イメージに囚われないパレスチナ問題を知りたい方、平和、正義、宗教、政治、国際協力等に興味のある方、是非受講してみてください。

Israeli-Palestinian conflict is said to be one of the most difficult disputes to solve in the world. Why has the problem not been solved for over 70 years?

The lecturer would like to create an opportunity for students to think from multiple perspectives about war, religion, justice, peace and international politics while unraveling the historical backgrounds.

She worked as an international cooperation NGO staff member in the Palestinian territories from August 2012 to February 2017, and implemented health projects for children in Gaza and the West Bank while living in East Jerusalem. She has visited Gaza more than 100 times. If you are interested in non-biased Israeli-Palestine conflict, or in peace, justice, religion, politics and international cooperation, please take this course.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション:パレスチナ問題の概要と自己紹介、授業の進め方説明
2. ユダヤ人とパレスチナ人:古代から現代まで
3. 反ユダヤ主義(ホロコースト)とシオニズムの高まり
4. イスラエルの建国とパレスチナ人の民族浄化:2つの正義?
5. 4回の中東戦争とレバノン戦争から見えてくること
6. 現在も続くパレスチナのナクバ:レバノンの事例から
7. 平和の象徴?!:93年オスロ合意を検証する
8. ベルリンの壁より遥かに長いイスラエルの分離壁:占領統治のススメ方
9. アメリカのユダヤロビーから聖地エルサレムへ
10. 国際法からの考察:何故国連は問題を解決できないのか?
11. 死海から見るパレスチナ経済と国際援助:援助は占領を固定化するのか?
12. ガザ包囲網(前編)地中海の巨大監獄
13. ガザ包囲網(後編)テロリズムとイスラム嫌悪へ一石を投じる
14. まとめ:13回授業の振り返り、レポートの説明など

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習・復習をするとより良く学べます。また、コメントノートでの質問には必ず返信します。質問がある人はお気軽にお問い合わせください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(50%) / 授業への取り組み(50%)

オンライン欠席4回以上は不可とする。

テキスト(Textbooks)

1. 臼杵 陽、2013、『世界史の中のパレスチナ問題』、講談社現代新書 (ISBN:978-4-06-288189-0)
2. イラン・パペ、2017、『パレスチナの民族浄化: イスラエル建国の暴力』、法政大学出版局 (ISBN:978-4-588603501)
3. 高橋 宗瑠、2015、『パレスチナ人は苦しみ続ける なぜ国連は解決できないのか』、現代人文社 (978-4-87798-597-4 C0036)
4. 立山 良司、2016、『ユダヤとアメリカ 揺れ動くイスラエルロビー』、中公新書 (ISBN978-4-12-102381-0 C1231)
5. 市川 裕、2019、『ユダヤ人とユダヤ教』、岩波新書 (ISBN:ISBN978-4-00-431755-5)

参考文献(Readings)

1. ミーダン、2010、『鏡としてのパレスチナーナクバから同時代を問う』、現代企画室 (ISBN:978-4-7738-1007-3)
 2. 臼杵 陽、2011、『シオニズムの解剖』、人文書院 (ISBN 978-4-409-23047-3 C3036)
 3. 松山 健二、2008、『武力紛争法とイスラエル・パレスチナ紛争』、大学教育出版 (ISBN:978-4-88730-811-4)
 4. 清田 明宏、2019、『ガザの声を聴け!』、集英社新書 (978-4-08-721076-7 C0230)
 5. 川上 泰徳、2019、『シャティーラの記憶』、岩波新書 (ISBN:ISBN 978-4-00-061338-5)
 6. ジョン・J・ミアシャイマー他、2007、『イスラエル・ロビーとアメリカの外交政策』、講談社 (ISBN:978-4-06-214009-6)
 7. 臼杵 陽、2016、『パレスチナを知るための 60 章』、明石書店 (ISBN:ISBN978-4-7503-4332-7)
- 川上泰徳『『イスラム国』はテロの元凶ではない』集英社 2016 年 ISBN978-4-08-720862-7
鈴木啓之『蜂起<インティファダ> 占領下のパレスチナ 1967-1993』東京大学出版会 2020 年 ISBN978-4-13-036301-3

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

英語: OCHA <https://www.ochaopt.org/>、UNRWA <https://www.unrwa.org/>

授業中動画や関連の映画を沢山お見せします。また時事ネタも頻繁に取り扱います。

・立教大学ではミックス型授業(対面授業をオンライン配信併用で実施する授業形態)の活用可能性を検証するため、2022 年度開講の本科目をミックス型でパイロット実施します。

対面・オンラインどちらの形態で受講するかについては、予め履修登録時点で選択のうえ、その希望に応じた科目コードで履修登録してください。一度選択した授業形態以外での参加は認められません。対面で参加した場合は、欠席とみなされます。また、オンラインで履修する本科目(FB152)は、遠隔授業の「60 単位上限」の対象です。対面での履修を希望する場合は FB019 を参照のこと。

なお、授業内で授業方法に関する調査等へ協力をお願いすることがあります。

注意事項(Notice)

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。